

ルネサス懇の情報に注目集まる

夏の電力不足への対応は？

3月の巨大地震の直後から、東日本は電力不足に見舞われ、急遽実施された計画停電の影響によって、地震による直接の被害が軽微だった甲府や高崎の工場でも生産を停止せざるを得ない状況になりました。4月の上旬になって気候が暖かくなったことで消費電力量が減り、計画停電を中止できたお陰で、那珂を除く全ての工場稼働が再開しています。しかし、電力消費がピークを迎える夏場には、計画停電の再実施を回避するために、使用電力の15%削減が必要とも言われています(4月28日時点)。加えて、向こう数ヶ月内にM8クラスの余震が発生する可能性も指摘されています。生産が停滞するリスクへの予防的措置として、会社はこの5月連休に、各工場をフル稼働させました。6月中の那珂工場の再立ち上げも予定通り実行される事を願います。

RELグループ2年目の再出発

世界金融恐慌の影響を受けて、2009年度の決算で大幅な赤字を計上したルネサステクノロジ社とNECエレクトロニクス社が合併してスタートした新生ルネサスエレクトロニクス社は、この4月で2年目を迎えました。当初の統合スキームである100日プロジェクトに拠れば、初年度で営業黒字を達成し、2年目の今年最終損益で黒字を達成するステップの年にあたるはずでした。ところが昨年は予想以上に進む円高や、需要の停滞によって、年度末の決算は苦しくなると目算されたところに、3月11日の大地震によって多大な被害を被ったことで、今年度は大変厳しい再出発の年となりました。

那珂工場は6月に再開

震災でもっとも被害を受けた那珂工場は、REL社における自動車用MCUの主力生産工場です。そのために顧客である各自動車メーカーの工場までが連鎖的に生産

ストップの危機となり、日本自動車工業会の強力な圧力と支援を受けながら、生産再開に向けた立ち上げ作業に尽力していると聞きます。4月27日の記者会見では、6月15日の一部生産再開がコミットされました。那珂地区も、まだ時々余震に見舞われる不安定な状況ですが、1日も早く生産再開に漕ぎ着けて欲しいと思います。また、現場で奮闘されている方々には、心身への負荷に対して十分な配慮が為されなければならないでしょう。

統合を成功させる年に

今年は、人事制度の統合を通じて、本当の意味で会社がひとつになる重要な年でもあると思います。統合後の新制度については、おそらく労働組合などを通じて社員に原案が示されると予想されます。私たちルネサス懇は、いち早く情報をキャッチして、望ましい制度のあり方について考え、議論して行きたいと思いますので、ご注目下さい。また各職場において、さまざまな議論が交わされることに期待しています。

ホームページを充実させます

昨年5月6日に開設したルネサス懇のホームページは、原則月1回以上の更新を目標に運営して参りました。幸いなことに、2011年初からアクセス数が漸増傾向にあります。震災直後には、新たにWEB限定版のピラの掲載を開始しました。今後はこれをタイムリーな情報発信のツールとして位置づけたいと考えています。

近日中には、「フロンティア」のコーナーを開設いたします。これは本ピラで連載しているルネサスSKYにおける多重偽装請負の争議の状況をはじめ、RELグループ内外で起きている労働問題と、運動の最前線をレポートするためのコーナーです。

今後ともコンテンツを充実させていきますので、是非ともご注目ください。

(URL : <http://www.renaskon.net/>)

ルネサス懇

ルネサス関連労働者懇談会 2011年5月 No.4

E-Mail : renaskon@gmail.com

Web : <http://www.renaskon.net/>

住所 : 東京都港区三田3-2-20 電機労働者懇談会気付

TEL : 03-3455-6006 FAX : 03-3451-3595

労働者はモノではない！

NEC セミコン重層偽装請負訴訟 第5回口頭弁論



3月7日(月)熊本地裁にて、第5回口頭弁論が行われました。

被告側の「業務は、詳細な処理手順が書いてある「仕様書」に基づいて行える。個別の指揮・命令は必要なかった」との主張に対し、原告柴田氏は、実際に受けた指揮・命令の内容を挙げ、被告の主張がいかにも事実と異なるかを訴えました。

弁護団は「詳細な業務処理手順が書いてある仕様書は指示文書だ。それに基づき業務処理がなされるのなら、それは立派な指揮命令下にあるといえる」と陳述。被告が盾にしている「仕様書」自体が立派な

指示文書であることを示し、矛盾点を鋭く突きました。今回は、6月3日(金)。雇用のあり方を問うこの裁判、原告一丸となって闘い抜きます。共にならばりましょう！

直近2ヶ月、春闘・早期退職などの動向

今年の春闘は、地震の影響で交渉が一旦中断し、他の電機大手から9日遅れの3月25日に会社回答がありました。注目された一時金は、電機産別ミニマムである年間4.0ヶ月での妥結となりました。今後の業績動向がどの程度下振れするかも判らない段階での回答だけに、この数値には例年とは異なる評価が必要と思います。しかし、今後の業績如何では、会社から再提案の申し入れを受ける余地も残していることから、予断を許さないものとなっています。

春闘が終わった次の週には、早期退職に応募された方々が退職されました。応募者総数はグループ全体で1487名と報じられています。目だったのはREL社本体の部長級以上の退職者が100名近くに及んだことです。本体の退職者は全体で700名弱だった様ですが、玉川・相模原、武蔵、日ビルの管理職が多かったのも特徴です。

また、3月31日には、旧NECELのローズビル工場(カリフォルニア州サンタクララ市)を、ドイツのテレフンケン・セミコンダクターズ社に43億円で売却するとの発表がありました。海外の事とは言え、大規模なリストラ策の実行と捉えておく必要があるでしょう。ローズビル工場と従業員の今後に気になります。

首都圏の事業所では、サプライチェーンの混乱、量産品の製造に欠かせない資材の供給難への対応、計画停電による勤務時間への影響と測定機器類などの設備が稼働できない問題、そして停電や交通機関の輸送力低下による家庭生活や通勤の困難など、さまざまな問題に向いながらの2ヶ月でした。この混乱も4月末になって、ようやく少し落ち着きを取り戻した感があります。こんな時期こそ、可能な限り少しでも休息して、明日への英気を養いたいと思います。

編集後記 東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。ルネサスグループでも、那珂をはじめ多くの工場が被災しました。復旧作業にあたられている方々に敬意を表します。

今年2月に、高崎事業所勤務の方から、ぜひ高崎でも定期的にルネサス懇のピラ配布を行って欲しいという要望をいただきました。関係者のみなさんにご尽力いただき、今回高崎事業所でのピラ配布を実現する事ができました。今後も職場からの声を大切にして、みなさんに役立つ情報をお届けしていきたいと思っています。